

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	幸区第2グループ(南加瀬・小倉・北加瀬)	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H27		H28		H27		H28		
	1 南加瀬こども文化センター ①年間延べ利用者数	38,676人	32,684人	②年間延べ利用団体数	667団体	579団体			
2 南加瀬小学校わくわくプラザ ①登録者数	193人	209人	②年間延べ利用者数	11,841人	11,424人				
3 夢見ヶ崎小学校わくわくプラザ ①登録者数	188人	182人	②年間延べ利用者数	13,976人	13,796人				
1 小倉こども文化センター ①年間延べ利用者数	28,227人	32,401人	②年間延べ利用団体数	252団体	241団体				
2 小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数	241人	234人	②年間延べ利用者数	14,827人	16,782人				
3 東小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数	241人	255人	②年間延べ利用者数	17,192人	16,777人				
1 北加瀬こども文化センター ①年間延べ利用者数	29,585人	31,985人	②年間延べ利用団体数	132団体	125団体				
2 日吉小学校わくわくプラザ ①登録者数	523人	539人	②年間延べ利用者数	32,259人	32,817人				
収支実績	単位:円								
	1 収入			140,031,219					
	指定管理料								
	2 支出			110,342,350					
	人件費			11,181,987					
	管理費			7,398,969					
	事務経費			8,788,312					
	その他経費			137,711,618					
	合計			2,319,601					
	3 差引								
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。								

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全な育成が図られているか。			
	(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> 仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター事業及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 市内各區で、複数館を運営する運営法人のスケールメリットを活かした全施設・区内合同事業を行うことで、子ども達が地域の枠を越えて交流を深めている。 各こども文化センター・わくわくプラザでは、運営協議会、区役所との共催事業を実施するほか、各種事業を通じて、中学生ボランティアの参加、職業体験の受け入れ、地域講師の招聘等を行うことで、保育園、学校、ボランティア、地域の各団体等、多数の地域住民が参加しており、多世代交流・地域交流を通じた地域活動の拠点として、関係機関や市民活動団体を結び付ける場としての役割を果たしている。 また、グループ合同子ども会議である「ハッピーミーティング」を実施し、グループ事業の企画等を話し合うことを通じて、児童の主体性を育てている。 南加瀬こども文化センターでは、運営協議会、地域ボランティアとの協働により、「南加瀬農園」を拡大した「南加瀬ファーム」での様々な体験を通して、多世代交流を図るとともに、音楽による地域住民の交流を図るため、新たな取組として、コンサートを実施するとともに、小倉こども文化センターでは新たに、中学生と乳幼児のふれあい事業に取り組んだ。 各わくわくプラザでは、子どもの心と身体を元気にする取組として、「わくドキタイム」を試行実施するとともに、子どもの身体活動と健康についての理解を深める研修を実施するなど、次年度の本格実施に向けた新規事業に取り組んだ。 北加瀬こども文化センターにおいては、地域団体のほか、町内会、幼稚園等と連携し、日吉地区の豊かな自然を活かした事業を複数実施するなど、地域特色を活かした事業取り組んできたことで、中高生利用者が約68%、乳幼児利用者が約11%増加するとともに、小倉こども文化センターでは、新たにKAPLA(ブロック)大会への作品応募に取り組んだことなどにより、小・中学生の利用者増加につなげている。 こうした取組を通じて、グループ全体では、約600人の利用者数が増加した。 			

サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	3	6
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	3	3
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
	保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズについては、事業実施後のアンケート、館内設置の意見箱、行事参加者とのコミュニケーション等から適宜把握し、子どもの意見を反映した図書や遊具の選定のほか、床の冷たさを改善するため、乳幼児室にジョイントマットを敷くなど、要望のあった部屋や設備の環境改善に取り組み、利用者の増加につなげている。 また、出された意見への回答、返事を掲示することで、自分の意見がどのように反映されているかについてを伝えており、意見・要望等は職員間で共有され、適切な対応が図られていた。 特別な配慮を必要とする児童への対応については、保護者からの聞き取り、学校との情報交換等により、一人一人の状況を把握し、職員間で共有しつつ、個別のタイムスケジュールを作成し、適切な対応を図るとともに、アレルギーや障がい児対応についての研修を子どもへの対応に活かしている。 学校及び行政機関との連携については、小学校の会議、祭りやバザーなどの学校行事への参加に加え、小学生のまち探検や中学生の職業体験の受入など、地域との交流に取り組んだ。 北加瀬こども文化センターでは、老人いこの家との相互の行事参加を通じて、社会福祉協議会と新たに連携するなど、地域や関係機関等との連携を深めている。 施設・事業の周知については、たよりの発行のほか、地域広報誌、インターネット、ラジオ等、様々な媒体を活用した広報に取り組んでいる。 運営協議会及び保護者懇談会については、事業計画通り開催し、保護者の意見、要望を把握に努めており、保護者からの多くの要望があった、手作りランチを実施するなど、事業実施に活かすとともに、懇談会を保護者が参加しやすい土曜に開催することや行事終了後に試行的に開催するなど、参加者の増加に努めている。 					
組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの利用状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑に事業運営が行われている。 研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的かつ多様な研修が行われており、受講者はスタッフ会議、ミニミーティング等の時間を有効に使い、研修内容について情報共有を図っている。 特に、幸区内のこども文化センターは、中高生の利用が多いことから、区合同では「不登校児対応研修」、グループ合同では「中高生対応研修」を行う等、多感な時期の中高生への対応に活かしている。 個人情報等の取扱については、個人情報保護方針、取扱規定を定め、管理体制が整備されており、個人情報の取扱いが適正に行われている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> こども文化センター・わくわくプラザともに、施設・設備の保守点検を日常的に行い、必要な修繕、備品の管理が適切に行われている。 利用者の安全確保に向け、グループ全職員の普通救命講習の受講、AEDの実習訓練、事例検討の実施や学校の安全対策会議への参加等を通じて有事に備えるとともに、積極的な見守り・声掛けによる事故防止対応、アレルギー対応、衛生管理等を適切に行っている。 防犯対策及び災害時の対応として、館ごとに地域の安全マップを作成し、利用者の意識向上を図るとともに、不審者対応マニュアルの作成、不審者対応・利用者の安全・大規模災害対応研修の実施、災害備蓄品の常備、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。 					

収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。					

4. 総合評価

評価点合計	66	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営を長年に渡り行ってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している。
また、各種イベントを実施する際には、子ども運営会議などを通じて、子ども達が自ら企画・運営できるようなサポート体制を取っており、特に、グループ事業の「ハッピーミーティング」を開催し、事業の企画から運営までを子どもたちが中心になって行っていることは、こども文化センターの目的である、青少年の健全育成・社会参加に大きく貢献していると言える。
さらに、学校や行政、地域の各団体等と連携した事業展開も行っており、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所の一つとしての役割を十分担っていると言える。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもも顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。